

私の週末

地質基礎工業(株) 鈴木 壮一

近年、サラリーマン社会においては、週休二日制が定着し、二日間の週末の過ごし方には、様々なパターンがあるのではと、興味深く思っている。けっして自分の週末の過ごし方を特異なものと思っている訳ではないし、今のところ変えなければならぬ理由もない。特別の課題があったり、自分の中にストレスを感じたり、変えざるを得ない環

境の変化が発生した場合には、自然の流れの中で何らかの変化をして行くのではと考えている。

さて、自分にとっての“週末”の意味は“維持しつづける生活”のアクセント、リラックスタイムとの位置付が最も重要ではないかと思っている。

かく言う私の週末のリラックスメニューは、概ね次の様に整理される。

リラックスの要素	種 別	細 別	主なシーズン
アドレナリンの沸騰	つり	海つり 溪流つり	4月～11月 4月～9月
頭の空白化	山登り、山菜取り 野良仕事 やりたいことをやる	畑、庭の手入れ、薪づくり e x 思いついて図書館へ デジカメスケッチ散歩 つり道具屋巡り	連休、夏休み 周年 冬 春、秋、冬 周年
心の開放	家族とのコミュニケー ション	たまの旅行、買い物、晩酌、子供との入 浴	周年

ここで、全くの私的な話で、紙面を煩わすことに心苦しさを感じつつ、私の生活環境について若干触れさせていただきたいと思う。住まいは、いわき市平の市街地より少し外れた市街化調整区域（駅まで車で5～10分）の田園と里山が広がる地域にあり、亡くなった親父が18年前に、実家近くに分家住宅として建築、移り住んだ。現在、母親と家族4人の5人暮らし、遠い祖先の墓と延命地蔵尊のある里山続きの敷地と、山の神の社のある少しの山林、若干の畑があるが、農業の実態は母親の気休め程度のレベルである。

この辺に説明がないと、街にお住まいの大多数の皆さんには“野良仕事”が特異なものに見えるのではとの心配からでした。

季節は冬から春へ、冬でも比較的暖かい当地では、現在、梅の花が満開となり、春の香りを辺りに振りまいておりますが、今年の冬の週末メニューは、息子の高校受験と重なって選択肢の少ないものとなりました。スキーへも行けず結果“野良仕事”という図式となります。今年は、少し荒してしまった庭を、重点的に手入れすることとし、12月から、義理や特別の用事のない土日は全部、庭の手入れ、風呂に炊く薪（灯油併用）づくり、山と畑の手入れに費やされることとなりました。決して辛くないこれらマイペースの“野良仕事”でのリラックスの有り様を少し紹介いたします。

某月某日、

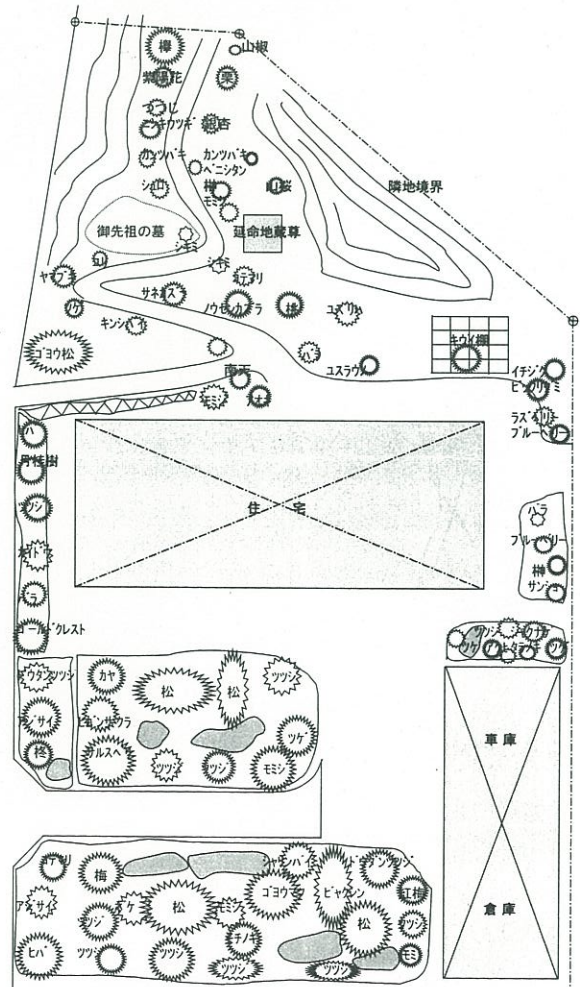
前から気になっていた、畑と山裾の笹や枯れ草

の伐採、伸び放題になったキウイの剪定、棚の補修をと思い立ち、冬枯れの畑へ、一輪車に草刈機、剪定鋏、ナタ、針金、ペンチ等を積んで出かけた。まずは、斜面の笹等を草刈機で伐採、自慢のプロ並の刃を持ってしても笹は手強い。刈り払った斜面は、惚れ惚れするほどの出来栄え、ポットのコーヒーをすすり、タバコに火をつける。頭上の梅の木は、心なしか蕾がふくらみかけているようだ。さて、次はキウイの剪定。ほったらかしていたため、新しい枝が縦横無尽に伸びて、うねり、絡まっている。パズルを解くように、ほどいて剪定して行く。2時間程の動きで、額には玉の汗、鋏を置いて一服、すると、先ほどから、忙しく動き回る自分に、つかず離れずしていた、黒と茶色のコントラストが鮮やかな小鳥が、目と鼻の先に留まり、しきりに首を傾げてこちらを見ている。図書館で調べて、ジョウビタキという冬鳥であり、この鳥の習性と判るまでは、やけになれなれしい野鳥だなと不思議に思っていた。この畑は彼のテリトリーなのであろう。こちらにとっては歓迎すべき出来事だが、あちらにしてはひどく迷惑なことなのかもしれない。こんなことを思いながら、ふと足元に目を落とすと、枯れ草の中に、春の使者、フキノトウを発見、これを摘んで、あとは目光（いわき特産の冬の魚）でも有れば、今宵の晩酌は最高になる。さあ、もうひと頑張り、日暮れ頃家に戻るまで、近所の婆ちゃんとなった一言挨拶を交わしただけの土曜日でした。

某月某日、

家の裏の、延命地藏尊への小道は、お参りする近所の婆ちゃん達と子供達、それに野良猫ぐらいの、利用者の限られた小道である。台風で支柱の壊れたノウセンカズラの手当てをしなければ、と思いつつ、晴れ渡った青空の中に、みごとに枝を広げる樺をデジカメに収めようと、小道を行く。思ったとおり、ノウセンカズラは倒れかかっていた。ニシキウツギやアジサイの枯れ枝も手入れが必要だ。ヒガンザクラと桃の間を埋めるヤマブキも過密のようだ。ヤマブキの繁茂ぐあいを、蔽こ

ぎしながら見ていると、入り組んだ枝先を軽やかにステップを刻む小さな訪問者、メジロのようである。つぶらな瞳で侵入者を警戒している。小さな彼の邪魔をしないよう立ち去らなければ、膨らみかけたスイセンに注意して小道を下る。さて、本日の作業は？丸太で貰った、楠を薪にしよう。チェーンソーと斧を用意する。楠は密度もかなりのようだが、案外、水分のせいかもしれない。チェーンソーで30cm程に次々と切断、生のほうが割りやすいので、片っ端から8~12等分に割り始める。斧の切れ味もなかなかだし、積み上がった薪を見るのも気分がいい。楠の個性的な芳香の中で1週間分の汗がどっと出る。冷蔵庫のビールを想像していると、庭先の満開の梅に、蕾を食べに来たヒヨドリが、スズメを威嚇し追いまわす、ピーピーという鳴声に驚かされる。六年生の娘が帰ってきた。さあ、お昼だ！冷えたビールと昼寝が待っている。彼岸も近い土曜日でした。



この様に私的で、凡そ田舎暮らし的な趣の過ごし方には、単に、住んでいる環境や、個人的な嗜好、自己満足という見方以外に、最近人間が目覚め始めた、環境との共生、自然環境への負荷をより小さくといった課題の糸口があるのではと思うのは、あまりに手前味噌過ぎるだろうか？確かに、街に出掛け買い物をしたり、遊びにお金を使うといった、経済の活性化への貢献は皆無であるが、大量生産、大量消費のサイクルから少し抜け出し、自然とつきあい、何もしなければゴミ同然の木を薪にし、化石燃料を積極的に使わない、車に出来るだけ乗らない結果、窒素酸化物の排出を少なくし、道路の渋滞の原因をつくらない等、地球に生きる一人の人間としての分担は、見事に果たしているのではと、まわり始めた酔いの中で自答しながら、週末土曜の夜が更けて行きます。

